

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

December
ISSUE



December, 2025
Volume 162

AIが発達する年末に思う

保護者の皆さまにおかれましては、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。2025年も残りわずかとなり、今年一年を振り返る時期となりました。

今年も子どもたちが元気に学校生活を送ることができたのは、保護者の皆さまの温かいご支援とご協力があったこそです。行事や学習活動への積極的なご参加、ご家庭での声かけなど、様々な場面でのご尽力に、改めて感謝の意を表します。

本年も、子どもたちはそれぞれの個性を伸ばしながら、学びや友だちとの交流を通じて大きく成長しました。スポーツデイや校外学習などの行事を通じて、自分の力を発揮し、仲間と協力する力も身につけてきました。困難な場面でもあきらめずに挑戦する姿には、私たち教職員も多くの感動をもらいました。

学校と家庭が連携し、子どもたちの成長を見守ることの大切さを改めて実感した一年でした。日々の連絡やきずな会を通じて、皆さまからいただいたご意見やご要望は、学校運営の改善にも活かされております。今後とも、より良い学校づくりのため、ご協力をお願い申し上げます。

実はここまでの文章は、AIに「小学校の保護者向けに2025年を振り返ってのご挨拶」と指示して作成してもらったものです。DIAの実態に合わせて、「運動会」を「スポーツデイ」、「保護者会」を「きずな会」に書き替えています。それ以外は手を加えていません。

12月になると、今年も1年があつという間に過ぎたなと思うことがしばしばですが、AIをはじめ情報通信の分野はわずか1年で飛躍的な進歩を遂げています。1年前に「真山 達志はどんな人」とAIに尋ねると、何故か一橋大学とか早稲田大学の教授にされてしまうことがありました。AIによっては単にウィキペディアを引用しているだけというようなものもありますが、今年はほぼ完璧な答えが返ってきます。これは、技術の進歩もさることながら、AIが学習をすることによって情報が増え、正確さが増したからです。

DIAの校長として8ヶ月余り、子どもたちの成長を見ていると、ふとAIの発展を思い起こしたことから、このような悪ふざけをしました。たしかにAIは情報を蓄積して賢くなっているのですが、子どもたちの成長は、単に賢くなるだけではなく、感性や創造性も高めているところが違うようです。冒頭の文章を見ても分かるように、そつなくもっともなことを述べているのですが、感性が伝わってこないように思います。言わば無味乾燥というイメージです。もちろん、指示の仕方を変えるとイメージも変わりますが、あえて漠然とした指示を与えてみると、まさに「機械的な」回答を提示しました。

ちなみに、「子どもたちの感性や創造性が高まったことを褒める挨拶（フォーマル調）」とAIに指示すると、「皆さん、一年間の学びと生活を立派にやり遂げられたことを、心から讃えます。この一年を振り返りますと、皆さんが持つ感性や創造性が、さまざまな場面で大きく育まれたことを強く感じます。図画工作や音楽、作文や発表、さらには日常の友だちとの関わりの中で、自分の思いを表現し、仲間の考えを受け止めながら新しいものを生み出す姿が数多く見られました。その一つひとつが、皆さんの成長の証であり、学校全体の誇りでもあります。

創造する力は、未来を切り拓く力です。失敗を恐れず挑戦し、工夫を重ねる姿勢を、これからも大切にしてください。皆さんの豊かな心と柔軟な発想は、必ずや社会を明るく照らす力となるでしょう。一年間の努力と成果に、改めて大きな拍手を送ります。」と返してきました。

指示を与える方が、色々な思いや価値観を込めて指示するとAIの方もそれに応えてくれるのは大したものです。ただ、DIAの教育は、指示を待ち、その指示に従って行動する人物を育てることではありません。自ら考え、自ら行動する責任ある人物、つまり自治自立の精神に基づいて「良心を手腕に運用する」人物を育てることです。AI全盛の現代にこそ、この同志社の教育理念は輝きを増すと思っています。

校長 真山 達志



キリスト教教育 12月：喜び December：Joy

「牝牛と熊は草を食み その子らは共に伏す。」

イザヤ書 11 章 7 節（聖書協会共同訳）

連日のように「クマ被害」のニュースが流れ、本校が立地する木津川市でも「クマ、またはクマらしきもの」の目撃情報が多数寄せられています。これを受けて本校でも残念ながら校外学習を見合わせた学年がありましたし、毎年恒例のクリスマス点灯式も校門前には出ず、全学年チャペル内でライブ映像を見ながらイルミネーションの点灯を見守るなど、少なからぬ影響を受けました。

やや遠方から電車通勤している筆者は早朝に 15 分間、山や田畑の横を通りますので、正直クマ出没のニュースは怖くて仕方がありません。毎朝恥を忍んで音高く「熊鈴」を鳴らして歩き、クマが近寄って来ないことを祈っています。

さて聖書でも古来、クマは危険な動物の象徴として描かれていますが、一箇所だけ平和の象徴として描かれている場面があります。それが上掲の「メシア預言」と呼ばれる箇所です。前の節から続く比喻を辿っていくと、「狼と小羊」「豹と子山羊」「子牛と若獅子」「雌牛と熊」「乳飲み子とコブラ」という風に、本来相容れない者、捕食者と非捕食者が争うことなく一緒にいられる世界を描いています。なぜならそれは、

「私の聖なる山のどこにおいても害を加え、滅ぼすものは何もない。
水が海を覆うように 主を知ることが地を満たすからである。」（9 節）

クマの個体が増えて人里にまで下りてくるようになった原因の一つに、もし森林伐採や地球温暖化があるとしたら、彼らを「害獣」に仕立て上げたのは我々人間であるかも知れず、ここらで真剣に「共存」ということを考えていかなければならないのではないのでしょうか。

Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓



<お知らせ>

・11月28日（金）同志社国際学院内「同志社創立記念礼拝」

児童版「同志社大学設立の旨意」の朗読や「新島襄物語」、「The Vine（有志児童の音楽ユニット）」の演奏がありました（児童・教職員向け）。

・11月29日（土）同志社創立150周年記念日の諸行事

① 創立記念祈祷会（於 若王子山頂 同志社墓地）

② 「同志社創立150周年記念フェスティバル in IWAKURA」（於 同志社中学校・高等学校）

本校からは「同志社国際学院有志アンサンブル」と音楽ユニット「The Vine」の出演がありました。また DIA グッズ SG さん有志のご協力により、「Ben-K グッズ」の販売も行われました。収益は全て「おにぎり献金」に寄付されます。

・12月5日（金）同志社国際学院初等部クリスマス礼拝（全校礼拝とクリスマス・ページェント）

全校クリスマス礼拝 8:35-9:10（児童・教職員向け）

クリスマスページェント 13:00-14:35（児童・教職員、3年生保護者またはご家族・ご友人向け）

3年生によるキリスト降誕劇で、DIA 有志アンサンブルの讃美歌伴奏があります。4、5年生も聖歌隊として劇を支えます。

礼拝メッセージは朴元 炯怜氏（えもと あれん氏・同志社国際中学校・高等学校宗教センター主任/宗教科教諭）です。

※駐車券は3年生保護者と一部 SG にのみ配付されます。

・12月9日（火）おにぎり献金

国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター（石川県能登半島地震支援金口）

海外：日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」・「シリア緊急募金」・「ガザ人道危機緊急募金」・「ミャンマー地震緊急募金」

今年度は上記の施設にお捧げします。ご賛同いただける方は、お子様に献金をお持ちください。

《イラスト元》イラストポップ <https://illpop.com/> いらすとや <https://www.irasutoya.com/>

G4 How the World Works ～ 身の回りの現象を理科的に捉える楽しみ(4年生)～

4年生では、身の回りに日常的に存在している空気や水、金属などに着目し、理科的な視点でそれぞれの特徴を学びました。これまであまり気に留めていなかった物質それぞれに法則や性質があり、それを実験で確かめていく Unit なので、子ども達の好奇心が次々生まれていました。

まずは、大阪市立科学館に行って、現代の生活の中には科学によって便利になってきたことがたくさんあることを学びました。小学生には少し難しい現象も、分かりやすい展示や丁寧な説明で子ども達は、どんどん興味がわいている

ようでした。午前中の見学を終えた後も、見学時間を少しでも無駄にしまいと大急ぎで昼食を食べて早々に展示会場に戻り、手に触れるものは全部触り、解説を熱心に読んでいたので、あっという間に帰りの時間となってしまいました。

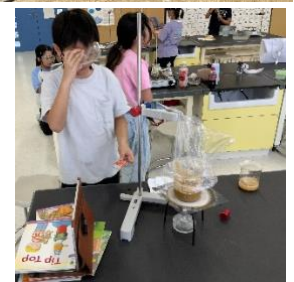


学校に戻ってからは、基本的な実験に取り組みました。閉じ込められた空気や水の性質、熱の伝わり方、温度と体積、水の状態変化などの実験をしながら、実験のルールや気を付けるべきポイントをしっかりと学習しました。理科室での実験は子ども達にとってはとても刺激的で、ガラス管に詰めたゼリーがフラスコ内の空気を温めたり冷やしたりすると動く様子や、示温インクの色が熱の伝導によって変化する様子を目の当たりにし、実験の一つ一つに感動していました。中でも、水と空気を圧縮して飛ばすペットボトルロケットの探究では、何度も失敗してずぶぬれになりながら、翼の形や水の量など、何をどうすれば遠くへ飛ばせるのかを

熱心に考え、チャレンジ続けました。成功することは嬉しいですが、失敗した苦い経験はずっと子供の心に残りつづけて今後の探究の糧になると思いました。そして、本 Unit における



学習の理解を示す課題(Summative Assessment)は、これまでの実験の中で生まれた自分の疑問を実験によって確認することでした。子ども達が自分で疑問を見つけ、それを検証するための実験器具や材料を設定し、仮説→実験→考察→結論というプロセスをすべて一人で行いました。子ども達の疑問はとても興味深い物ばかりで、「温度によって塩と砂糖の溶ける量に違いはあるのか。」「缶とピーカーのお湯の沸く早さに違いがあるのか。」「エタノールの沸点は水と同じなのか。」「地中の水は沸騰するから蒸発するのか。」「ジュースやコーヒーなど、水に何かが混ざっていると沸点は変わるのか。」「木の板の熱の伝わり方は金属と同じなのか。」など、6週間の Unit で学んだ中で、自ら疑問を持っていました。実験によって身の回りの自然現象を解明できるということを学び、『疑問を持つことの楽しさ』『客観的なデータから真実を考えることの楽しさ』を感じる力が子ども達の中に育った証だと思えました。



本校 DIA で身に付けさせたい力の1つは探究する力であり、そのスタートは、自分で興味を持ち疑問を持つことです。受け身になることなく、主体的な姿勢で得た新しい発見や知識は、記憶に残り続ける財産となります。今回、4年生は理科的に捉えることの楽しみをこの Unit で知り、新たな探究の入り口を獲得しました。これからも理科的に捉えることの楽しみを継続して持ち続け、6年生の Exhibition でも、理科的な視点を含んだ多面的な主張を展開してほしいと、期待が膨らみました。



National Education and International Standards Converge: MEXT Adopts PYP Principles

Hello everyone,

We are excited to share that the Japanese Ministry of Education (MEXT) is making a major shift in the Course of Study (CoS) that directly mirrors the core principles of the IB Primary Years Programme (PYP). This alignment confirms that DIA's educational direction is future-ready and globally relevant.

The MEXT revision confirms the national curriculum is moving away from passive knowledge acquisition toward the active development of human potential, validating the global framework we use here at our school.

Three Key Areas Where MEXT and PYP Align

The MEXT revision identifies three major pillars that directly correspond to the foundational components of the PYP:

Shared Goal	MEXT Revision Focus	PYP Framework Component
1. Developing Capability	Focusing on "Qualities and Abilities" (資質・能力)—what students will be able to do with knowledge.	Approaches to Learning (ATL) Skills and the Learner Profile (who we want to be).
2. Deep, Transferable Understanding	Structuralizing content around "Core Concepts" (中核的な概念) to ensure integrated, deep understanding.	Key Concepts (e.g., Change, Function, Perspective) that allow knowledge to be transferred across contexts.
3. Active Learning	Implementing "Active, Dialogue-Based, and Deep Learning" (主体的・対話的で深い学び) to move away from rote instruction.	Inquiry-Based Learning—where students drive their own questions and construct knowledge actively.

The Goal: Future-Ready Global Citizens

Both the MEXT revision and the PYP share the ultimate goal: to cultivate individuals who can continuously learn, collaborate, and become **creators of a sustainable society**.

By applying the PYP's inquiry methodology to MEXT's rigorous content, we ensure your child is both academically prepared for Japan and also, through their study of conceptual knowledge, prepared to thrive anywhere in the world.

国の教育制度と国際基準の収束：文部科学省が PYP の理念を採用

保護者の皆様へ

この度、文部科学省（MEXT）が推進する次期学習指導要領の改訂が、私たちが取り組む「IB プライマリー・イヤーズ・プログラム（PYP）」の核心的な理念と直接的に一致していることをご報告いたします。この一致は、当校の教育方針が未来志向であり、国際的な教育の動向と連動していることを裏付けるものです。

今回の MEXT の改訂は、受動的な知識の習得から、児童生徒の潜在能力を能動的に引き出す教育への大きな転換を示しており、当校が採用するグローバルなフレームワークの正当性を確認するものです。

MEXT と PYP が一致する 3 つの主要分野

MEXT の改訂で強調されている 3 つの主要な柱は、PYP の基盤となる要素と密接に対応しています。

共通の目標	MEXT 改訂の焦点	PYP フレームワークの構成要素
1. 能力の育成	「資質・能力」に焦点を当てる—児童が知識を使って何ができるようになるかを重視。	学びへのアプローチ（ATL）スキル および ラーナー・プロフィール（私たちはどのような人間になりたいか）。
2. 深い、応用可能な理解	「中核的な概念」に基づいて内容を構造化し、統合的で深い理解を確実にする。	キー・コンセプト（例：変化、機能、視点）—知識を様々な文脈で応用可能にする。
3. 能動的な学習	暗記中心の指導から脱却するための「主体的・対話的で深い学び」の実施。	探究的な学習—児童自身が疑問を提起し、知識を能動的に構築する。

究極の目標：未来に通用する世界市民の育成

MEXT の改訂と PYP は、最終的に同じ目標を共有しています。それは、生涯にわたって継続的に学び、多様な人々と協力し、**持続可能な社会の創造者**となる人材を育成することです。PYP の探究学習の方法論を MEXT の厳格な学習内容に適用することで、お子様が日本において確かな学力を身につけるとともに、概念的知識の学習を通じて世界のどこでも成功できる準備が整っていることを保証します。

敬具

Chris Elsdon

PYP Coordinator



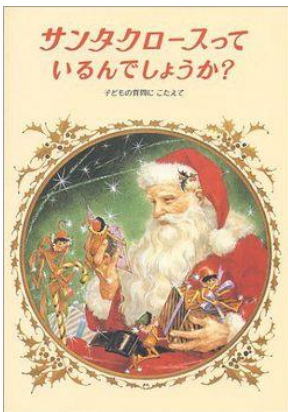


おしらせ

クリスマスのお話

今年も残すところあと 1 ヶ月となりました。クリスマス、お正月と楽しいイベントが続き、子どもたちはきっとワクワクしていることでしょう。今年も数あるクリスマスの本からこちらをご紹介します。

『サンタクロースっているんでしょうか?』作: ニュー
ヨーク・サン新聞「社説」 絵: 東逸子 訳: 中村 妙子
出版社: 偕成社



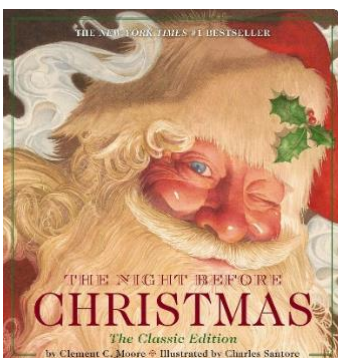
今年も紹介させていただきます。こんな時代だからこそ子どもだけでなく、大人も手に取って読んでいただきたい本です。今から 100 年以上前、8 歳のバージニアという少女が、アメリカの「ニューヨーク・サン」新聞社に、手紙を出しました。この新聞記者のお返事の内容は、当時新聞の社説となり、今では古典のようになって、クリスマスの時期が近づくと、アメリカのあちこちの新聞や雑誌に掲載されるそうです。日本でも 1977 年の初版以来、何度も版を重ね、多くの親子に読み継がれています。

『Who Will Guide My Sleigh Tonight?』by Jerry
Pallotta(Author), David Biedrzycki(Illustrator)



ベストセラー作家ジェリー・パロッタが、サンタクロースがクリスマスイブのそりを引くのに完璧な動物——トナカイ——を選んだ理由と経緯を明かす。北極の舞台裏をユーモアたっぷりに描いた本作は、ジェリー・パロッタの子供向けスタイルで語られ、デイヴィッド・ビエドジツキによる鮮やかな色彩の美しいイラストが彩りを添えています。

『The Night Before Christmas Oversized Padded
Board Book: The Classic Edition』by
Clement Moore(Author) Charles Santore(Illustrator)



The Night Before Christmas は、何世代にもわたりサンタクロースを生き生きと描いてきた魅惑的なクリスマス物語です。クレメント・C・ムーアによるニューヨーク・タイムズ紙ベストセラー第 1 位の古典詩です。装丁もとても丁寧で、細かく描かれたイラストにも注目です。

12月の主な行事・予定

12月10日～12月16日 SPT カンファレンス		
12月20日～1月6日 冬季休業日		
1	月	Unit5(week 2)
2	火	私小連立権教育研修会のため 3 時間授業 / Human rights education workshop for Kyoto private elementary school association(3 hours class)
3	水	委員会活動/ Students' committee
4	木	
5	金	クリスマス礼拝/Christmas worship service G3 ページェント/G3 Pageant
6	土	
7	日	
8	月	Unit5(week3) G4 キャロリング/ Caroling
9	火	
10	水	SPT カンファレンス (午前授業) / SPT Conference(AM lessons)
11	木	SPT カンファレンス (午前授業) / SPT Conference(AM lessons)
12	金	SPT カンファレンス (午前授業) / SPT Conference(AM lessons)
13	土	
14	日	
15	月	SPT カンファレンス (午前授業) / SPT Conference(AM lessons)
16	火	SPT カンファレンス (午前授業) / SPT Conference(AM lessons)
17	水	午前授業/AM lessons
18	木	午前授業/AM lessons
19	金	終業礼拝 (午前授業) / Closing worship service(AM lessons)
20	土	
21	日	
22	月	冬期休業日 / Winter Holidays
23	火	冬期休業日 / Winter Holidays
24	水	冬期休業日 / Winter Holidays
25	木	クリスマス休日 / Christmas Holidays
26	金	冬期休業日 / Winter Holidays
27	土	
28	日	
29	月	冬期休業日 / Winter Holidays
30	火	冬期休業日 / Winter Holidays
31	水	冬期休業日 / Winter Holidays

1月の主な行事・予定

1/7(水)	始業礼拝 (午前授業)
1/29 (木) ~1/30(金)	G6 Exhibition